

第3学年東組 国語科学習指導案

「本を読みたくなるポップを作ろう ～『ワニのおじいさんのたから物』～」

学習指導者 岡根 平

1 学級（34名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

本学級の子供たちは前年度、「読む」領域において、学習を通して捉えた課題解決の方法である学び方（「人物の会話や行動が分かる言葉を探す」など）について、それが使えたかどうかを振り返ってきている。質問紙調査の結果を見ると、「国語科の授業で、できた（できなかった）理由を考えている」と答えた子供は27名いる。しかし、実際の授業で学習を振り返る際には、教師の指示がなければ、本時分かったことのみ記述する子供がほとんどであり、その理由まで記述している子供は少ない。このことから、学び方について振り返るよさを感じていない様子が伺える。またその際は、一人で学習を振り返る子供が多く、友達と関わっている子供の様子はほとんど見られない。

（2）教科に関する学級の実態

前の物語教材『すいせんのラップ』では、登場人物の気持ちを、叙述を基に捉える学習を行っている。また、誰が何を言ったかを問うアニメーションゲームにおいて正答率が8割を越えていた子供は29名であった。一方で、既習の物語の内容を簡単に紹介する力を問うたレディネステストでは、物語内の変化まで取り上げた子供は9名、出来事だけ取り上げた子供は15名であった。多くの子供が人物の行動等を把握できているが、物語の内容を伝える際に、変化について伝えるとよいことが分かっていることが伺える。

2 本単元で習得を目指す「振り返る」方法

自分が使った学び方を振り返る

3 本単元で目指す共に学びを進め合う子供の姿

前単元で図書室を訪れた際、司書の先生から選書に悩む子供が多いことを聞き、「みんなから本を紹介してほしい」という依頼を受け、本の内容をポップで紹介することを単元のゴールに設定する。

その後、設定した単元のゴールの達成に向けて必要なことは何かを出し合い、取り組む順序を全体で話し合いながら学習計画を立てる。立てた学習計画に基づき、ゴールの達成に向けて本時やるべきことは何か相談しながら課題を設定し、「人物の行動や気持ちが分かる言葉を見付け、それをつなげて考えると解決できそう」などと解決の見通しを立てながら課題解決に向かう。

ポップの内容を考える際は、捉えた物語の出来事を基に複数の叙述を関連付けながら物語内の状況や心情の変化を捉えていく。例えば、ポップには「変化するきっかけ」や、「変化する前」を入れるとよいことを知った子供たちは『「おじいさんから宝物の場所を教えてください」部分は必要だね』『おにの子が宝物自体を知らなかった』という部分も必要じゃないかな。だから、宝物を間違えたんだよ」「しかも、おにの子は初対面のワニのために、一日中落ち葉をかけてあげる心のきれいな子だったから、夕やけを宝物だと思ったのかも」「なるほど。僕は返事がないからといって『おばあさんかも』と思うような素直な子だったから、とも思ったな」「そうだね。そこも変化後につながりそう。〇〇さんのおかげでポップに入れるとよいことを見付かったよ」など、友達と相談しながらよりよいポップに向けて内容を吟味していく。

振り返り場面では、本時できたことを捉えるだけでなく、必要に応じてペアやグループの友達に自分の学び方について尋ねながら、課題解決や協働に関する学び方についても振り返っていく。それにより正確に本時の自分の学び方を捉えたり、「〇〇さんの考えを聞いたから、ポップに入れるといい部分を比べて考えることができたよ」などと協働のよさを実感したりしていく姿を目指す。

4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

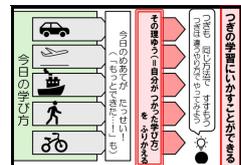
『図書館に行こう』という単元の学習で、学校の図書室を訪れた際、司書の先生から普段図書室を利用する人の様子について紹介してもらった時間を設定した。そこで、司書の先生から、「図書室を利用する人がどの本を選べばよいか悩んでいるので、みんなから本を紹介してほしい」という依頼を受ける場を設けた。紹介する本については、その他の話も読んでもらいやすいという理由からシリーズ本の物語を提案してもらう。①時にはそれを想起し、単元のゴールを設定する。紹介の仕方については、書店の展示の様子を写真で提示することで、ポップという宣伝方法を知った後、教師作成のモデルを見ることで、紹介している物語を読みたくなくなるという効果を捉えられるようにし、ポップを使って紹介しようという思いが高まるようにする。



【教師作成のモデル】

5 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 7/8）

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
	<p>① 図書室に来た人が本を手に取りたくなるにはどうすればいいだろう</p> <p>司書の先生から依頼を受けたことを想起する。その後、教師のモデルを基に、ポップという宣伝方法と効果について考えることで、「自分たちが選んだ本を読みたくなるようなポップを作って紹介しよう」という単元のゴールを設定する。その後、「どんな物語か知る」「続きが気になるように隠すところを考える」などゴールに向けて必要なことを全体で話し合う。そして、共通教材『ワニのおじいさんのたから物』でポップの作り方を学び、自分が選んだ本でポップを作るという学習計画を作成する。いくつかのシリーズ本の中から自分が紹介する物語を決める。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>年度初めの国語科の時間に前学年の学習を想起し、国語科での学び方を共有している。また、これまでの単元で見付けた新たな学び方についても本単元までに共有している。単元の初めには、方法を使うよさや、共有した学び方を視点にしたシートに沿って、学び方が使えていたかどうか振り返る、という方法を使う手順をモニターに示し、一緒にしながら共通理解している。</p>
二	<p>②③ 物語を読んでどんなお話かまとめよう</p> <p>共通教材を基に起こった出来事をまとめる。その中で、人物の行動や出来事を表す叙述に着目すればよいことや、必要でない言葉を削ったり、まとめたり、言い換えたりすればよいことを捉える。③時では、②時で学んだことを生かしながら自分が選んだ物語で起こる出来事をまとめる。</p> <p>出来事をまとめた後、計画を見ながら、本を読みたくなるポップにするために、次は物語の中で隠せばよい部分を考えていく必要感をもつ。</p> <p>④⑤ 物語の中で隠した方がよいところを考えよう</p> <p>②時でまとめた出来事の中から、ポップには載せない方がよい部分はどこか選ぶ。考えやその理由を話し合うことで、気持ちや状況の変化後の部分を隠すとよいことを捉える。⑤時は、④時で学んだことを生かし、自分が選んだ物語の中からポップで隠す部分を吟味する。選んだ部分はポップでは見えないため、そこに興味が向くような出来事をポップに入れる必要があることに気づき、学習計画を修正する。</p> <p>⑥⑦ ポップに入れるとよい部分を見付けよう。</p> <p>教師のモデルを基に、魅力あるポップにするためには、「変化のきっかけ」や、「変化する前」の部分を選べばよいことを捉える。共通教材を再読しながら気持ちや状況の変化、そのきっかけとなった出来事や人物の性格などを想像し、ポップに入れる内容を吟味する。⑦時では、⑥時で学んだことを生かし、⑤時で選んだ変化後につながる出来事は何か吟味する。</p> <p>⑧ ポップを完成させよう</p> <p>これまでの学習を基に、自分が選んだ物語を紹介するポップを完成させる。互いのポップを読み合い、感想を伝え合いながら単元の振り返りを行う。</p>	<p>【想起段階】</p> <p>振り返り場面において「次の学習に生かせるようにするには何を振り返るとよかったかな」と問いかけ、方法を想起できるようにする。教室には方法やその手順、方法を使うよさを示した掲示物を用意して想起しやすくしておく。</p> <p>方法が使えていない子供には、個別に方法を使っている友達を見るように促したり、方法の手順やよさを一緒に確認したりする。</p>



【掲示物の例】

6 本時の学習

目 標	物語内の変化や、そのきっかけとなった出来事、人物の性格について具体的に想像したことを基に、見付けた変化後につながる部分はどこか考え、ポップに入れる内容を選ぶことができる。
--------	---

学習活動と手立て	主な子供の意識		
見 通 し	1 前時の学習を振り返り、学習課題を設定する。	<p>前は、『ワニのおじいさんのたから物』でポップに入れるとよい内容を考えたね。</p> <p>物語内の人物の気持ちや状況が変わった後の部分を隠すとよかったね。</p> <p>「おにの子が宝物とは何か見付ける」という状況に「変化するきっかけ」や「変化する前」の部分を入れると、読んでみたくなるポップになったよ。</p> <p>今日は、自分が選んだ物語の中でポップに入れる内容を選びたいな。</p> <p style="text-align: center;">ポップに入れるとよい部分を見付けよう</p>	
	2 解決方法の見通しをもつ。	<p style="text-align: center;">今日は、どんな秘伝の技が使いそうかな。</p> <p>今回も気持ちを想像するとよさそう。</p> <p>「前の場面とつなげる」も必要かも。</p> <p>同じ話を選んだ友達に相談しながら出てくる人物が同じだから、シリーズ考えたいな。</p> <p>人にも相談したいな。</p>	
行 動	3 自分の選んだ物語の中でポップに入れるとよい部分を探す。 ・自分で ・グループの友達と	<p>僕たちは、『ともだちや』だ。「キツネが本当の友達を見付けて喜ぶ」ところにつながる部分を探そう。</p> <p>私たちは『あしたするよ』だね。「がまくんが片付けをして、すっきりする」につながるころはどこかな。</p> <p>オオカミが「本当の友達か？」と聞いたことがきっかけだね。</p> <p>クマと一緒にイチゴを食べたこともきっかけじゃないかな。</p> <p>「片付けたくない」という変化後とは逆の気持ちが分かる部分が必要だね。</p> <p>途中からは、片付けをし始めているね。その部分は必要な。</p> <p>クマといた後のなんとも言えない顔からもキツネの楽しくなさそうな気持ちが分かるね。</p> <p>確かにクマとの出会いより、オオカミと会った時の方が、キツネが迷っていることが分かるね。</p> <p>僕は、その後のまいた寝るがまくんがおもしろくて隠そうと思うから、片付けのことも少し入れたいな。</p> <p>私は「果たして片付けられるのか!？」の方が続きが気になると思うから入れないでおきたいよ。</p> <p>キツネの迷いや、さみしい気持ちが分かる部分が必要だね。楽しくなさそうな部分を紹介文に入れよう。</p> <p>ポップの吹き出しには、「部屋が散らかっている」だけでなく「めんどくさがり屋」も入れよう。</p> <p>ポップを見た人が本を読みたくなるように、書く内容を決められたよ。</p>	
	振 り 返 り ・ 見 通 し	4 本時の学習を振り返る。	<p>課題を解決できたのは、「人物の気持ちを想像した」からだよ</p> <p>僕は、「人物の会話や行動」を見付けることができたよ。</p> <p>困っていた時に、友達に相談したおかげで解決できたよ。</p> <p>僕たちの班は、今日もたくさん意見を出し合って、いい考えを作れたね。</p> <p>書くことが決まったから、次はいよいよポップを完成させたいな。</p>

評 価	ポップに入れる内容について、友達と交流しながら、人物の状況や気持ちの変化、そのきっかけとなった出来事や性格を具体的に想像し、「変化のきっかけ」や「変化の前」を選んでいる。また、学び方について解決過程を振り返り、自己評価している。 【方法：発言、様相、記述】
--------	--

7 本時の詳細

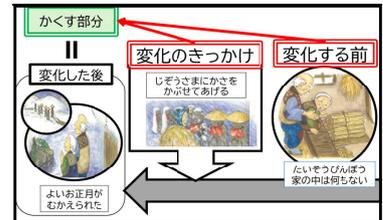
～見通し～ **学習活動 1・2**

単元を通して見通し場面では、これまでに学習してきたことやその目的、そして本時すべきことが何かを確認する時間を設ける。学習計画と司書の先生からの依頼、単元のゴールを位置付けた補助黒板を常時掲示しておくことで、単元のゴールを意識しながら適切な課題設定ができるようにするとともに、課題解決の必要感を高める。また、学習のどの場面でもいつでも友達に相談してもよいことを単元を通して共通理解しており、子供たち同士が必要に応じて相談できるようにしている。

本時では、前時に共通教材でポップに入れる内容を考えたことを想起し、今日は自分の選んだ物語を紹介するポップに入れる内容を考えるという課題を設定する。

また、前時「変化のきっかけになる部分」「変化する前の部分」に着目したことで課題解決できたことを捉えられるように、補助黒板に学習の足跡を図示しておき、解決方法の見通しをもてるようにする。

学習活動2では、共有している国語科の学び方の中から本時使えるような技を選ぶ時間を設ける。

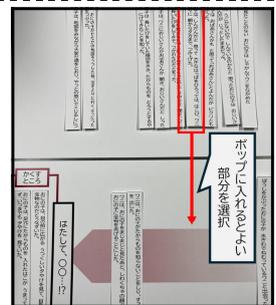


【前時捉えた視点の図】

～行動～ **学習活動 3**

本時までには自分が選んだ物語で起きる出来事は、移動できる短冊にまとめておくとともに、その中の隠したい部分がどこか分かるようにしておく。

学習活動3では、その短冊を入れ替えながらどの部分をポップに入れるか吟味することで、物語で起こる変化について具体的に想像できるようにする。その際、抜き出した短冊に着目できる教具を使うことで叙述と結末、抜き出した叙述同士のつながりを捉えやすくする。自分が紹介するお話は、同じシリーズ本を選んだ友達とどのお話を紹介するか分担し、グループの中の自分の役割を明確にしている。また、同じシリーズ本を選んだ友達同士、固まって座るように机を配置することで、必要に応じて、友達に相談しやすいようにしておく。



【本時使う教具の一部】

課題解決中は、どの部分を選べばよいか困っている子供に対して個別支援を行う。まずは、隠そうとしている部分は何か確認した後、「その逆の気持ち（または状況）ってどんな気持ちかな」と尋ねる。そして、口頭で表出させた後、それがよく分かる短冊はどれか問うなど、段階を追って課題解決ができるようにするとともに、ペアの子の考えを見たり聞いたりすることを促す。

友達の考えを参考にしたり評価したりした際には、机に貼ったカードにその都度チェックしておくことで、学習を振り返る際に自分の取組を想起しやすいようにし、協働のよさや友達への自分の貢献を感じやすくする。

友達の考えやしていることを「見た」			
友達にやり方や考え、そのりゆうを「聞いた」			
友達に自分の考えを「伝えた」			
あなたの考えをこんなうにさせてもらいました!			

【机に貼るカード】

～振り返り・見通し～ **学習活動 4**

振り返り場面では、本時できたことを確認した後に、本時の学び方についても振り返られるようにする。その際は、「次の学習に生かせるようにするためには何を振り返ったらよかったかな」と教師が問うことで、「自分が使った学び方を振り返る」という方法を想起し、使えるようにする。また、一緒に課題解決に取り組んだ友達に自分の学び方について尋ねることで、より本時の自分の取組を正確に捉えることができるというよさも確認する。

「きょう力」のわざ	「わざ」が使えた日は、その日の
分からないことがあった時、友だちの考えや、やり方を見た	
みんなの考えや、していること、その理由を友だちに聞いた	
自分の考えを友だちに つたえた	
相手の考えを聞いて、どう思うかこえた	
こまっている人がいた時に、声をかけた	
「グループ」のわざ	
自分たちは、こまっている人がいたら、みんなが たすけあって勉強できた	

【チェックシートの一部】

実際に学び方を振り返る時は、これまでの学習で獲得してきた国語科の課題解決の方法と、協働する方法を観点とした振り返りシートを使って①個人の学び方②グループの学び方の順序で振り返る。その際は、課題解決中にカードにつけた互いのチェックを見直すとよいことを確認し、友達と協働したことが自分たちの課題解決につながったことを感じられるようにすることで、協働することのよさや、自分が友達のポップ作りに貢献できたことを感じやすくしておく。